



不動院寺報
檀家と

第2号 令和2年7月
発行人 住職 片岡卓治
編集人 総代長 鈴木裕士

お知らせ

【お施餓鬼会の規模縮小について】

当山では毎年八月に、新盆をお迎えする檀家様と世話人・総代でお施餓鬼会を実施しております。既にご案内してありますように、今年からお施餓鬼会は八月四日に行うことになりましたが、新型コロナウイルスの影響が懸念されるため、今年度は総代のみの参加で実施することにいたします。新盆のお塔婆につきましては、各家庭にお伺いして行う柵経の際に御持ちいたします。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【住職挨拶】

向暑の候、檀家の皆様には平素より当山の護持、発展のためにご協力いただき、深く感謝申し上げます。

コロナ感染拡大の峠は越え、世の中もやや落ち着いたを取り戻してはきましたが、いまだ予断を許さない状況が続いております。皆様におかれましても、心落ち着かない日々を送られていると存じます。当山の御本尊不動明王は、真言宗の根本尊であります大日如来の化身で、恐ろしい表情をしています。



掛軸が祀られています。お手を合わせることで心落ち着かせ、コロナの脅威から生ずる不安やストレスを取り除いていただければと思います。不動明王のご加護により、皆様のご健康であられますようお祈り申し上げます。

ますが、悪を断ち仏道に導くことで人々を救済する役目を担っております。真言宗のお仏壇には、御本尊大日如来の左側に不動明王の

住職の奥様



片岡孝子プロフィール
昭和四十一年六月、大子町の寺院に三人姉妹の二女として生まれる。平成十五年三月不動院片岡卓治住職と結婚、現在一男二女の母親。趣味はパン作り・DIY。

ごあいさつ

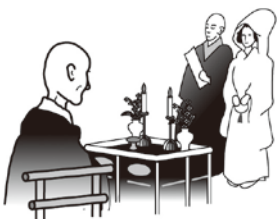
不動院に嫁いで、今年で十七年目となります。片岡孝子でございます。日頃より檀家の皆様方には、何かとお世話になり感謝申し上げます。

早いもので義父である先代住職が亡くなって一年が過ぎ去りました。私は家にいることが多かったのですが、義父と話しをする機会が多く、お寺のことや子どもたちの教育のことなど、毎日二〜三時間話すのが日課でした。私は学生の時に実の父親を亡くしているのですが、義父と関わった時間のほうが長かったように思います。それだけに義父が亡くなった時の悲しみは計り知れないものがありました。気持ちの整理がつくまでにはかなりの時間を要しましたが、今年三月の義父の一周忌では墓前にて、現住職を扶け、家族の健康を守っていくことを誓いました。

まだまだ未熟な私ではございますが、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りながら不動院発展の一助となるよう力を尽くして参りたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

奥さんへのインタビュー

- Q** 結婚されるまでは何をされていましたか？
A 銀行員です。
- Q** 住職との結婚、決めては？
A 誠実な人だったので。
- Q** お寺の奥さんとして大変なことは？
A お寺の仕事が最優先なので、子どもたちの学校関係の行事に参加できないことが多いことです。



Q お寺を留守にできることが少ないと思えますが、買い物のうち、生協、通販、ネットを利用する割合は？

A 最初の子が双子でしたので、生まれた時からおむつなどはネットで箱買いでした。今でも生活用品はネット購入です。食料品は生協も利用しています。

Q 子どもさんの教育面ではどのように関わってききましたか？

A 生後間もないころから、絵本の読み聞かせを沢山し、幼児期は図書館通いが日課でした。現在は子どもたちの自主性に任せています。

Q 最後に、笠間、岩間の良いところは？私が生まれ育った大子町と違って、交通の便が良く、東京に近いところです。

三學山 岩崎寺 不動院

【お寺の名称・由来と歴史】



岩崎寺の名は？
寺号はその寺院の縁起によりますが、よほどの大寺院か、有力者が開基でなければ由来がはつきりしているところは少ないです。岩崎寺の名称についても明確な由来が分からなかったため、次のように推論しました。まず、岩間の由来ですが、昭和三年発行の西茨城郷土史によると「本町は往古（平安代）石間 按ずるに今の岩間上郷岩間下郷之なり、・・石間を以って名とするものは上郷下郷の地 山谷の間にありて、山中岩石多きを以ってなり。」とあります。実際に当山の本堂・

庫裡が再建される以前は、建物の近くまで岩盤が迫っており、開削には大型重機が使用されたほどでした。地盤が硬いため境内の建造物は、東日本大震災の際にもその影響を受けることは殆どありませんでした。創建当時、開発に携わった人々の苦労はかなりのものであったことは容易に想像できます。岩の先（崎）に建てられたということで、岩崎寺という寺号になったのではないのでしょうか。（今回は不動院の名称について予定していません）

不動院ガイド

鐘楼堂は、三十六世應譽代に川崎肥料店主、幸助氏の寄進によって建立されました。戦時中、梵鐘は供出の憂き目に遭いましたが、本堂建立の際に、先代店主川崎幸男氏により新たに寄進されました。



↑ 鐘楼堂 昭和九年建立

ソバの花越しに不動院全体を望む→

《不動院からのお知らせ》

1. 山門の補修について

当山の山門は、昭和五十五年に弘法大師御入定千五百年御遠忌記念事業の一環として再建されました。

以来、四十年余りが経過しましたが、特に北側破風板の腐食が目立つようになつたため、今年二月に補修工事を実施しました。

2. 本堂と客殿の利用について

葬儀や法事にあたって、本堂や客殿をどうぞご利用ください。

ケータリング（出前料理）による客殿での飲食も可能です。利用料金・利用時間等についての詳細は不動院までお気軽にお問合せください。

また、駐車場も五十台の駐車が可能
です。

編集後記

今回は、住職の奥様に登場いただきました。

奥様からは掲載辞退の申し出があったのですが、不動院を身近に感じていただくことと女性活躍の観点から、無理に寄稿をお願いした次第です。また、今後の発行で希望される記事がありましたらご遠慮なくお申し出ください。

〔編集人〕 総代長鈴木 裕士